

石川町郷土かるた 読み札解説

あ	悪戸古墳 時を越えて 石室の中に	大字中野字悪戸に所在する古墳群で、昭和55年には県史跡に指定。横穴式石室を持つ9基の円墳からなる群集墳。これらのうち、周りに溝が確認できる古墳もある。開口している1号墳は墳丘の長さが最大約2mで、石室を巨石で築いている。鉄鍬・刀子・釘などが出土しており、築造年代は7世紀初頭と考えられている。
い	今出川 天空を舞う 桜かな	今出川・北須川の3kmにわたって、ソメイヨシノ、シダレハニザクラ、エドヒガンザクラなど、約千本の桜が両岸に咲き誇る様子は圧巻である。毎年、今出川沿いのあさひ公園では、石川桜祭りが催され、多くの花見客で賑わいを見せている。
う	美しい 鉱物の宝庫 石川町	変成岩と花崗岩、異なる二つの岩石が地下で接する石川町は、日本三大鉱物産地の一つに数えられている。発見された鉱物は150種類以上。美しく大きな結晶は国内でも有数。また、サマルスキー、コロンビットなど世界的にも珍しい鉱物が産出されるのも特徴。
え	緑日に にぎわう花火 夏祭	毎年お盆の時期に、花火大会や盆踊りが各地区で催されている。石川町南町・荒町通り(クリスタルロード)で開催されている石川きらら夏祭りでは、通りを歩行者天国にし、さまざまな露店や物産品が並び、賑わいを見せる。
お	大池に 羽を休める 北の使者	沢井字大山平の大池は、農業用水のため人工につくられた溜め池で、面積は約4ha。冬になると白鳥が飛来することから、白鳥池とも呼ばれている。毎年、白鳥や鴨等の渡り鳥が、数多くやってくる。
か	花鳥木 町のシンボル 桜 うぐいす 杉木立	石川町の花は桜、鳥はウグイス、木は杉。桜は華やかな町のイメージが託され、うぐいすは操業豊かな町民の心のシンボルとして、杉は羅連する町の願いが込められている。
き	きゅうり手に 夏をつける 天王祭	夏の訪れをつげる八句毛神社例大祭を、通称「きゅうり天王祭」と呼ぶ。その昔、疫病が流行した時に、人々は牛頭天の祟りだとして、この地方で採れるきゅうりをお供えして祈願したところ、病気が治まったと伝えられている。今でも、きゅうり2本供えてお詣りし、お護符代わりに1本を持ち帰って食べると、その年は無病息災・家内安全などのご利益があるといわれている。
く	クリスタルパーク 石川健児が 汗流す	クリスタルパーク・石川は町民のスポーツ、レクリエーション施設の拠点。総合体育館と多目的広場ではスポーツ施設として、石と芝の公園・クリスタル広場は石のステージを備え、各種イベントや町民の憩いの広場として開放している。
け	元氣よく あいさつかわす 石川っ子	町内を歩くと、子どもたちが元気に挨拶してくれる。大人でもなかなかできない行動を、子ども達が自発的に行なっていることは、町に明るさと活気をもたらしてくれている。
こ	苔むしる 歴史を刻む 三芦城	石川城(三芦城)は、市街地西側の独立丘陵につくられた中世城館である。石川氏の祖・有光が平安時代末期に築城したと伝えられ、24代昭光が豊臣秀吉に領地を没収されるまでの居城。通称「八幡山」に所在する、石川町の象徴的な史跡である。
さ	ささら舞 三匹獅子が 群れ踊る	中田字八又地内に鎮座する、八坂神社と湯殿神社で執り行われる民俗行事。様式は、ささら舞、神楽舞、鍾馭(しょうぎ)の舞、鳥刺、お多福・おかめの舞、白銀の各舞から成り立つ。昭和49年に町の無形民俗文化財に指定された。
し	自由民権の とびらを開いた 石陽社	明治8年に結成された政治結社「有志会議」がのちに「石陽社」となる。これは東北初の政治結社である。すなわち石川町は、東北の自由民権運動を主導する自由民権運動の発祥の地と言える。
す	水晶の 光り輝く 石の里	石川町は、大正初期から昭和40年頃までの長い間、珪石(石英)、長石が盛んに採掘された。見事な結晶の鉱物、珍しい鉱物が数多く採集されたことから、学術研究者や鉱山師たちで大変賑わった。
せ	石尊山 石川見守る いつまでも	昭和43年に明治100年を記念して、石陽社の結成記念碑が石尊山公園に建立された。眺望は素晴らしい市街地を一望できる名所で、夜には天気予報システムを備えたイルミネーションが輝く。
そ	その水は 式部ゆかりの 小和清水	小和清水は、大字曲木地内に所在する。平安時代の女流歌人として知られる和泉式部が産湯に使ったといわれる泉。子宝や子育て、さらには声が良くなる、歌がうまくなること御利益のある泉として人々に親しまれている。福島の水30選にも選ばれている。
た	大切な 命の泉 母畑ダム	千五沢ダム(母畑ダム)は、国営農地総合開発事業の基幹施設として、昭和50年3月に完成した。豊かな緑に包まれた母畑湖畔には、母畑レークサイドセンターや遊歩道などがある。
ち	中世期 栄華を築いた 石川公	石川氏は、11世紀末以降に石川地方に上着したと考えられている。13世紀以降、鎌倉幕府の御家人、執権北条氏の御内人となって鎌倉幕府と深く結び付く。南北朝の動乱では一族が対立し、南朝方と北朝方に一族は分断。戦国時代になると伊達政宗の後ろ盾を受けるが、天正18年(1590)、小田原北条攻め不参加を理由に、豊臣秀吉に領地を没収(奥羽仕置)されたため、政宗を頼って角田の地に移った。
つ	通学の にぎわい見える 水郡線	茨城県水戸市の水戸駅から福島県郡山市の安積水盛駅までと、茨城県那珂市の上菅谷駅で分岐して茨城県常陸太田市の常陸太田駅までを結ぶ鉄道路線。郡山方面の通勤・通学の足としてかかせない。
て	手をあわす 三十三の観音像 祈りの小道 乘蓮寺	西館山乗蓮寺は真言宗智山派の寺で、承和3年(836)に創建され、後に石川氏の祈願寺となったと伝えられる。仙道三十三観音の第17番札所の観音堂が所在する。なお、銅鐘は元禄10年(1697)、鈴木庄右衛門信利が大施主となり造られたもので、昭和51年に町の有形文化財に指定された。
と	鳥内は 弥生の土器の 出るところ	大字新屋敷地内に所在する。縄文時代後期から弥生時代中期前半にかけての遺跡であり、特に弥生時代中期の壺棺再葬遺跡として全国的に有名である。東海地方の水神平式土器など、5つの地域相を土器に見ることができ、さらには、全国で50例ほどしかない人面付土器も出土している。昭和53年に福島県の史跡に、平成18年に出土遺物91点が県の重要文化財に指定された。
な	那須山を 遠くに望む ごんげん山	南山形小の西側に位置する丘陵地に、権現様が祭られている。古くは山伏の修験の場所であったと伝えられているが、大正時代に学校の運動場として整地され、山橋村三枝連合運動会が開かれた。戦時中は食料増産のため、畑になり、その後は、また学校グラウンド、現在は権現山保善会の人々により整備保存されている。
に	二本ぶな キスゲといっしょに 町一望	大字中田・坂路地内の、標高600mを超える石川町でも最高地に所在する景勝地。天気の良い日には、那須連峰や磐梯山などが眺望でき、また、ニッコウキスゲやスズラン等の植生も見られる。
ぬ	ぬかずいて 願いをこめる 虚空蔵様	虚空蔵様は天正年間(1573年～1591年)に、石川昭光の姉・浄仙尼が尾巻山に草庵を結び、山頂に虚空蔵尊を安置し、「権現の本地奥の院」と称したのが始まりとされている。本尊である虚空蔵菩薩像は徳一大師作と伝えられ、丑寅生まれの人たちの守り本尊として厚い信仰を集めている。なお、昭和51年に町の有形文化財に指定された。
ね	猫がなき 傷がなおった 式部の湯	石川地方には、平安時代中期を代表する女流歌人、和泉式部にまつわる伝説が数多く残されています。式部が当地方で生まれ、京の都に上るとき、猫啼で足を止め、湧き出る泉につかり、疲れを癒したという。そして、愛猫をこの地に置き去り、猫は三日三晩鳴きさげんだという。それが今の猫啼温泉の名のいわれである。また、この湯で猫の病気が治ったともいわれている。
の	野木沢の 式部をしのぶ 光国寺	和泉式部は、旧野木沢村曲木の豪族真直莊司安田氏衛國康の娘(玉世姫)として生まれ、13歳で安田家の館、金子館で育ったという。国安の祖父、掃部国光が亡父(宮内光国)の供養のため、創建した寺院が金子山光国寺であるといわれている。境内には式部堂がある。また寺には「金子山光国寺由来縁起、附和泉式部元祖物語之事」と「和泉式部由来記全」が伝えられている。光国寺は石川町大字曲木字仲の内にある曹洞宗の寺院である。本尊は地藏菩薩。
は	禿山公園 真紅にぞめる 山つつじ	石川町大字塩沢字禿山地内にあり、その名の通り、草木も生えない、砂地が広がる禿山で、ところどころに松があり、公園となっている。向いの山には山つつじが一面にあり、開花の時期には真紅のじゅうたんが山を覆うのは見事である。公園のふもとには、禿山温泉がある。
ひ	ひとびとの 人生見つめる ロマンズ橋	石川町内を流れる2つの今出川と北須川の合流地点に架かる橋で、今須橋という。数多い橋のなかで、俗称ロマンズ橋というが、時代をしのばせる素敵な呼び名である。
ふ	古くから 成長見守る 安産地蔵	石川町大字新屋敷字新堂地内に安産地蔵尊堂がある。縁起によれば、堂の奥には、廃寺となった台比山常光寺があった。室町時代に建立された寺であるが、明和3年(1766)一人の旅僧が無住であった常光寺に杖を止めた。布教と寺子屋を開き、子弟の教育を行った。安永8年、62歳のとき、門弟を集め、「死後はミイラと化し、広く世の女性の安産を守護する」と宣言し、そして、断食を行い、自ら石棺の中に入ったという。今でも、近郷近在からの妊産婦の安産祈願者が後を絶たない。
へ	ベグマタイト 結晶の大きさ 日本一	石川地方は昔から、日本三大ベグマタイト産物の産地と称されている。水晶(石英)、長石、雲母などの結晶が大きいこと、その種類(約160種)の多いこと、特に希元素鉱物の種類も多いこと、その内放射性鉱物が産することでも有名である。産物の産する歴史も古く、和銅6年(713)朝廷に水晶と雲母を献上した。明治時代には陶磁器の釉薬、ガラスの原料として採掘された。昭和40年代まで産業として栄えた。歴史民俗資料館には、国内でも貴重な標本が保存されており、34点が平成7年3月、福島県指定文化財(天然記念物)に指定されている。

ほ	豊作願い 太鼓たたいて 赤羽念仏踊り	石川町大字赤羽地区で毎年7月に行われている通称「てんと念仏」である。豊年祈願、外からの害虫侵入防止として行われている。太鼓の音で稲に付いた虫が落ちるように願って、青年が念仏を唱えながら太鼓たたいて踊るのである。今も続く虫送りの行事である。
ま	まつり行列 天狗様を 先頭に	伝説によると初代石川城主有光公は源氏の氏神である京都石清水八幡宮の御分霊を石都々古和気神社におまつりし、年に1度町民が参拝できるように祭礼が始められたという。現在のように、町内を6班に分け、6年に1度祭礼を行う当番町になったのは宝暦7年(1757)、江戸時代である。祭礼は天狗様を先頭に笛や太鼓とともに袴を着た若者がみこしを担ぎ、町内20ヶ所の旗場で舞を奉納し、山車やみこしで大変な賑わいを見せている。
み	民主主義 河野広中 福島事件	日本が明治時代に入り、近代国家の夜明けとなるが、憲法も国会もない時代に、民主主義国家をめざす、大きなうねりが日本国中からわき上がる。石川町には東日本で最初の政治結社石陽社(はじめ有志会議)が結成された。さらにもうひとつの政治結社第二櫻鳴社も結成される。広く国民の声を取りれる政治をめざす運動が自由民権運動で、その中心人物が当時区長の河野広中や神官吉田光一らでした。しかし、政府は自由民権運動に対して、厳しい弾圧を行った。福島県令三島通庸により明治15年には多数の民権家が逮捕される事件、福島・喜多方事件が起こる。石川地方からも10名に拘引状が出され、7名が逮捕された。
む	昔はね 五里石 河童の とびこみ台	石川町字関根地内に、今出川の中に大きな石が突き出しているのが五里石である。石というよりは岩石と言ったほうが良いが、今出川の水がこの五里石にあたり大きく航行、水しぶきを上げているところであり、昔は格好の子どもの遊び場であった。ここに立つと、多くの子どもの喚起の音が聞こえる。また、昔は祭礼の清めの場所にもなっていたようである。
め	明治初期 義塾を築いた 森嘉種	明治25年6月、石川地方の青年教育、中等教育のため、石川義塾が開かれる。時の石川町長吉田光一を塾主、石川郡立石川高等小学校教員森嘉種を塾長として開設。明治40年私立石川中学校に昇格する。吉田は教育にもっとも力を注ぎ、自由民権運動時代の石陽館、石川義塾の創設は当地方にとって、100年来の大きな財産であり、吉田・森らの思いが達成され、多くの人材を輩出、当地方発展に大きく寄与している。
も	もみじ咲え 冷たく清い 大法清水	石川町大字大室地内にある清水である。真言宗智山派医王山薬王寺の山門のところにある弘法大師が開いたといわれている清水である。薬王寺は徳一太子の開山をいわれている。
や	八槻市 年に一度の ゆずまつり	石川町字南町にある近津神社の祭礼は、毎年11月に行われる。このとき立つ市が八槻市である。市は多くの露天商が南町から荒町にかけて並び、植木や日用品、正月の準備をする人々にぎわう。ここで必ず売られているのが袖であることから、袖まつりとも言われている。
ゆ	ゆかた着て 白鯨踊り 舞う子ども	石川町母畑地区には上母畑ささら、北山ささら、湯郷渡ささらが残されており、村内安全、五穀豊穰、無常息災を祈願し八幡神社、津島神社に奉納する。伝承によれば始められたのは恒武天皇の延暦年間とされている。内容は獅子舞、神楽舞、四方圓、白鯨踊りで構成され、昭和60年12月、町指定文化財になっている。
よ	世直しの 一揆で荒れた 明治初期	幕末から明治初年にかけて、全国的に世直し一揆が起こる。石川地方でも明治元年12月8日から11日にかけて3日間、石川町から浅川町にかけて一揆が起こった。8日朝、一揆勢約100人が山白石村庄屋松浦家を襲い、各村の庄屋や駒付などを次々に襲いました。一揆勢は「世均大明神」の旗を持ち、28ヶ村延べ1200人が参加したと言われている。石川町大字南山形の矢内家では、当時の柱傷を今でも見ることができる。
ら	ラジウム泉 心をいやす 母畑温泉	およそ900年前、八幡太郎義家が発見したと伝えられる歴史のある温泉郷である。義家が奥州の豪族安倍一族討伐のため、下向してきた時、激戦となり、愛馬が負傷し、たが、母畑の谷間をさまよっている数日の間に傷が治ったという。この冷泉の丘のうえに母衣と旗を奉納して山神を祭ったという。これが後に母畑になった起源といわれている。現在、5軒の温泉旅館が営業し、多くの観光客で賑わいを見せている。東北有数のラジウム含有量を誇り、リュウマチ、打ち身などに効果の名高い名湯である。
り	りんご こんにやく 石川牛 心をこめた 特産物	石川地方の特産品はりんご、こんにやくと石川牛である。こんにやくは昔は生産が盛んであったが、今は加工場が数件ある。
る	累代の 殿様ねむる 長泉寺	石川町字高田に所在する曹洞宗通幻派の寺院である。本尊は地藏菩薩。本堂左方の墓地の中に、石川公墓地があり旧家臣が献上した垣根に守られている。室町時代三芦城主石川駿河守義光公は、矢ノ目の地に一字を建て、高源院と称した。その後、永享8年(1436)19代持光は父義光公の菩提を弔うため、高源院を高源山長泉寺と改め、大雄山最乗寺の即庵宗覚和尚を招聘し、開山の祖とした。
れ	歴史伝 鎮座します 薬王寺	石川町大字大室に所在する真言宗新義派(智山派)の寺院である。本尊は大威徳明王。境内にある薬師堂とともに、平安時代、徳一太子によって創建されたと伝えられている。寺には県指定文化財「仁王般若経版木」と「妙法蓮華経版木」があり、正慶元年(1332)と康暦2年(1380)の銘を持つ。境内に薬師堂もあり、阿彌陀如来、薬師菩薩などが安置されている。
ろ	老木の 高田桜の 色のよさ	石川町字高田280の1、北須側沿岸の高台にある樹齢推定500年の老木で、樹高約18メートル、幹の直径約1メートル90センチ。種類は薄紅彼岸桜で、昭和31年9月に、県指定天然記念物になった。4月の開花時期には、町内のさくらの中でも、ひととき紅色が濃く、大きさと色は王者の風格である。
わ	和久 沢井 曲木にもあるよ 板碑群	板碑は鎌倉時代から室町時代に武士の間で流行した死者を供養するための石造塔婆である。石川町には約300基あり、関東系の線彫りや彩色が施されているものもある。和久にある板碑は彩色の線彫り阿彌陀三尊来迎塔婆、沢井安養寺の板碑は応長2年(1312)の銘のある線彫り阿彌陀三尊来迎塔婆、曲木の板碑群は大日如来、釈迦如来、虚空蔵菩薩などが刻まれている。中でも、曲木の建治元年(1275)の銘の板碑は、町内最古のものである。
を	狛犬を 彫った名人 小林和乎	小林和乎は明治14年(1881)石川町大字沢井字打出に生まれ、浅川町富貴作の石工小松寅吉に弟子入りする。厳しい修行の中で才能を開花させる。和乎は狛犬をはじめ、五重塔や灯籠、子安観音像、地藏菩薩像、不動明王像、大黒天像など多くの石造物を残している。中でも、石都々古和気神社や古戦八幡神社の飛翔獅子、子獅子は最高傑作と評されている。
ん	「んだっばい」 やさしいひびき 石川弁	石川の方言を耳にする機会も、少なくなってきた。ご高齢の方でないといえない言葉もある。石川地方の言葉は茨城県に近いといわれているが、いかがでしょうか。

◆読み札応募総数 1,220 首

(小学校 8校 522 首・中学校 3校 485 首・高校 1校 59 首・一般 154 首)

採用作者名

円谷 奈々 (野木沢小)
郷 達矢 (沢田中)
務川 裕子 (一般)
大森 史佳 (沢田中)
中島 悟 (沢田中)
瀬谷 悠輔 (中谷二小)
西牧 美優 (一般)
諸岡大二郎 (石川小)
藤島紗矢香 (母畑小)

佐藤 郁也 (野木沢小)
鈴木 后世 (一般)
小針 寛史 (石川中)
藤澤 剛 (石川中)
有松 浩輔 (中谷一小)
大越 泰希 (沢田小)
近藤 美紀 (沢田中)
酒井 研弥 (山形小)
深谷 節子 (一般)

佐藤佳奈恵 (沢田中)
川島 信治 (一般)
瀬谷 裕綱 (中谷二小)
曲山 竜平 (石川中)
緑川 智帆 (南山形小)
相楽 大輔 (石川中)
芳賀 弘行 (県立石川高)
西牧ミツコ (一般)
吉田ミエ子 (一般)

(読み札五十音順)

◆絵札作者

岡部仁之助 (神奈川県秦野市在住・石川町双里出身)

石川絵画クラブ